

第1学年 道徳科学習指導案

日 時 令和3年11月25日(木) 5校時
児 童 1年1組 男20名 女14名 計34名
授 業 者 遠藤 文枝
すこやかサポート 佐藤 愛莉

1 主題名 こまっているともだちに (B 友情, 信頼)

2 教材名 くりのみ(「新・みんなのどうとく 1」 学研)

3 主題設定の理由

(1) 児童について

本学級の児童は、友達と仲よくしたいと思っている。友達と触れ合いたいという思いも強く、一人でいることよりも友達と関わりたい思いを強くもっている。しかし、まだ自己中心的で、仲間意識が希薄な一年生にとっては、相手を心から気遣い、いたわり合うことは難しい。友だちと仲良くすることの大切さは分かっているが、ついその場の感情で友達よりも自分のことを優先しがちである。

そこで、この授業を通して、友達同士は、時には自分のことしか考えなかつたりけんかをしたりしても、お互いを大切に思ったり助け合ったりすることで、さらに友情が深まることに気付かせ、自分もそういう友達関係を築こうとする心情を育てたいと考える。

(2) 道徳的価値について

学習指導要領第1学年及び第2学年の内容の「B 主として人との関わりに関すること」の「友情, 信頼」は「友達と仲よくし、助け合うこと。」とある。この内容項目は、次のように発展していく。

| 低学年 | 中学年 | 高学年 | 中学校 |
|-----------------|-----------------------|---|--|
| 友達と仲よくし、助け合うこと。 | 友達と互いに理解し、信頼し、助け合うこと。 | 友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら人間関係を築いていくこと。 | 友情の尊さを理解して心から信頼できる友達をもち、互いに励まし合い、高め合うとともに、異性についての理解を深め、悩みや葛藤も経験しながら人間関係を深めていくこと。 |

友達関係は、最も重要な人間関係の一つであり、友達関係の状況によって学校生活が充実するかどうか方向付けられることも少なくない。よりよい友達関係を築くには、互いを認め合い、学習活動や生活の様々な場面を通して理解し合い、協力し、助け合って友情を育てていくことが重要である。

しかし、友達でも、自分のことだけ考えて行動したり思いや考えの食い違いを受け止められなかつたりする。そのような出来事が起こることで、自分を振り返って改善点を自覚したり相手の思いや考えに寄り添い、友達関係を修復しようとしたりする。友達の思い、仲よくしようとする心が人にはあることに気付かせ、その心をもとに、自分もよりよい人間関係を築いてい

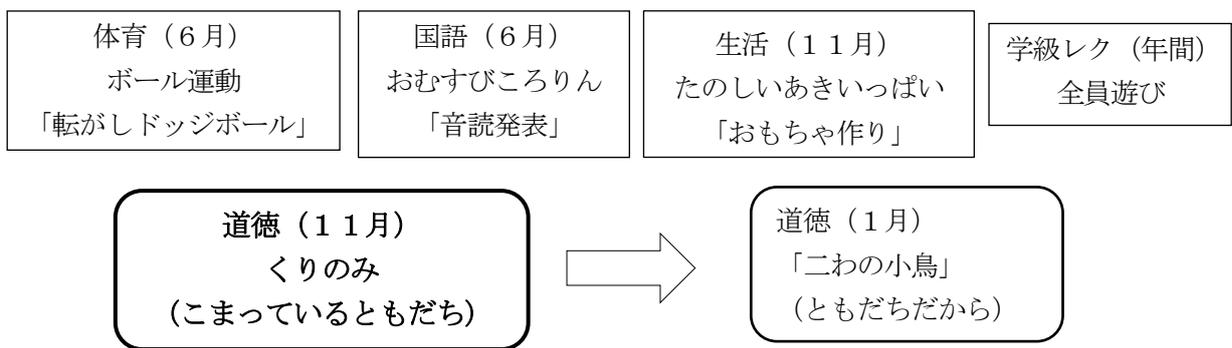
こうとする心情を育ていけるよう本時の指導にあたりたい。

(3) 教材について

本教材は、どんぐりを見つけたにもかかわらず、それを落ち葉で隠したり何も見つからないとうそをついたりするきつねと、二つしかないくりのみのうちの一つを、きつねに渡すうさぎの姿が対比的に描かれている。

自分の都合を優先させてしまったきつねの気持ちは、1年生にも共感できる内容である。食べ物独占するきつねの思いに共感させたりうさぎの優しさにふれたときのきつねの思いを話し合ったりすることを通して、友達と仲よく助け合うことの大切さを考えさせることができる教材である。

4 主な各教科等との関連



5 本時の指導

(1) ねらい

困っているきつねを助けようとするうさぎやそれを見て涙を流すきつねの立場に共感させることを通して、友達のことを考え助け合うことの大切さに気付かせ、友達と助け合おうとする心情を育てる。

(2) 展開

| 隣 | 学習活動と主な発問 | 予想される児童の反応 | 指導上の意図・留意点 |
|----------------------------|---|------------------------|---|
| つ か む 3 分 | 1 教材への関心を高める。 ○冬に向かう森の写真を見る。 | ・寒そう ・食べる物がなさそう | ・教材への方向付けを図る。 |
| み つ め る 5 分 | 2 教材を基に、話し合う。 ・教材文を読み、あらすじを確認する。 ・心に残った場面を発表する。 | なぜ、きつねはなみだをながしたのでしょうか。 | ・話し合いに重点をおくため、あらすじを確認する。 ・心に残った場面を考えながら聞くようにさせる。 ・心に残った場面をもとに学習課題を設定する。 |

| | | | |
|------------------------|--|--|--|
| <p>みつめる</p> <p>30分</p> | <p>○きつねは、たくさんのどんぐりをみつけたとき、どんな気持ちだったでしょう。</p> <p>○どんぐりをかくしたのは、なぜでしょう。</p> <p>◎きつねは、なぜなみだをながしたのでしょうか。</p> <p>○なみだをぼろっとこぼしたきつねは、この後うさぎにどんなことを話したのでしょうか。</p> <p>＜役割演技＞</p> <p>1回目 ◆うさぎ(教師) ◆きつね(子ども)</p> <p>2回目 ◆うさぎ(子ども) ◆きつね(子ども)</p> <p>3回目 ◆うさぎ(子ども) ◆きつね(子ども)</p> <p>○きつねとうさぎのやりとりをみて、いいなと思ったところを教えてください。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・うれしいな。 ・たくさん食べよう。 ・おなかですいたから自分だけで食べたい。 ・誰にも渡したくないから。 ・じぶんだけで食べたいから。 ・ありがとうって思ったから。 ・もらってうれしかったから。 ・うそをついてしまったから。 ・うさぎさんありがとう。 ・うさぎさんごめんね。 ・ぼく、うそをついていたんだ。 ・あそこにどんぐりを見つけたんだ。 ・一緒に見つけたどんぐりを食べよう。 ・なかよしになって嬉しい。 ・もっと仲よしになると思った。 ・やさしい気持ちになった。 | <ul style="list-style-type: none"> ・寒い北風の中、やっと見つけたどんぐりなので、たくさん食べたいことや隠しておきたい気持ちを共感的に捉えさせる。 ・おなかいっぱい食べたことにも着目させ、きつねの心情を捉えさせる。 ・やっと見つけたくりのみをくれたうさぎの気持ちも考えさせることにより、友達を助けようとするうさぎの優しさに気付かせる。 ・うさぎの優しさに触れ、きつねの気持ちに変化したことに気付かせる。 ・自分ごととして捉えさせるために、ワークシートに書き、役割演技をさせたい。 ・役割演技を見ていた児童がどのように感じたのか発言させ、考えを共有し深めていきたい。 ・きつねとうさぎの両方の立場から多面的・多角的に考えさせる。 ・相手を思う心が通じ合っ てきつねとうさぎがお互いにあたたかくなる気持ちを味わわせる。 |
| <p>ふか</p> | <p>3 道徳的価値の内面的自覚を深める。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・困っていたら助けても | <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習について、身近な友達と仲よく助け合 |

| | | | |
|------------------------|--|--|--|
| める 5 分 | ○もっとなかよしになるために、 こうしたいなと思うことを書き ましょう。 | っと仲よくしていきた い。 ・友達のことを考えて仲 よくしていきたい。 | おうとする心情が高めら れるよう、自分の言葉で ワークシートに書いてま とめる。 |
| ひろ げ る 2 分 | 4 今後の実践につなぐ。 ・児童の振り返りを交流する。 ・教材の続きを話す。 | | ・友達の振り返りを聞くこ とでより理解を深める。 ・次の日、一緒に食べ物を 探しに行き、何も見つけ られなかったうさぎに、 きつねが、そっとどんぐ りを渡した内容で終わ る。 |

(3) 評価の視点

- 役割演技できつねとうさぎの心情を考えることを通して、助け合うことの大切さを多面的・多角的に考えていたか。
- 友達はお互いを大切に思ったり助け合ったりすることで、さらに友情が深まることを知り、友達のことを考え、助け合うことよさや大切さを自分との関わりで考えていたか。

(4) 板書計画

もっとなかよしになるために

かくす

挿絵

挿絵

挿絵

秋の森の写真

冬の森の写真

きつねさんは、なぜ、なみだをながしたのでしょうか。

うれしいな。

たぐさんたへよう。

おなかがすいたからじぶんだけでたへたい。

だれにもわたしたくない。

じぶんだけでたへたい。

なみだ

挿絵
(涙を流す場面)

VSの
み

・もっとなかよし。
・たすけあう。
・いっしょにたへよう。

・きつねさん、おなかがすいた
でしよう。
・いっしょにたへよう。

・おなかがすいたからじぶんだけでたへたい。
・だれにもわたしたくない。
・じぶんだけでたへたい。

・うれしいな。
・たぐさんたへよう。
・おなかがすいたからじぶんだけでたへたい。

・おなかがすいたからじぶんだけでたへたい。
・だれにもわたしたくない。
・じぶんだけでたへたい。